



生命医科学部 石浦章一 先生

- # SC副専攻設立
- # 認知機能研究
- # サイエンスライティング

質問 01/04

なぜいま、サイエンスコミュニケーターが必要だと考えるのか？

今、サイエンスコミュニケーターが誰でも名乗れる「簡単でえらそうな」名前(資格)になっています。ただ科学に興味がある市井のおじさんから、どこかの科学館で数回授業を受ければ名乗れるものまでいろいろです。しかし、**研究者が兼任しているものは少なく、広い興味と学識を持った真のサイエンスコミュニケーターが求められています。**

同志社の学生さんたちには、数多くの科目を学び、この全うなサイエンスコミュニケーターになってほしいと思います。

質問 02/04

東大、北大、早稲田のSC養成副専攻と比較した同志社ならではの独自性

先行の3大学のサイエンスコミュニケーター養成は、ほとんど失敗に終わりました。東大では大学院の副専攻でしたが、専門の仕事が忙しくて、それに落ちこぼれた人たちのたまり場になってしまいました。早稲田、北大はマスコミ、市民をターゲットにしましたが、先細りになり、どうなったかわかりません。やはり時間のある学部時代に、基礎をしっかりつけるという同志社の方針は間違っていないと思います。

質問 03/04

副専攻を通じて身に着けてほしい力

端的に言うと余力です。もちろん基礎力(倫理、統計、データ処理、科学全般の知識)も大切ですが、余った時間に専門外のことも貪欲に取り込む力が、将来の勉学意欲につながります。

「2, 3回生のときはあんなに頑張ったのに、4年生・修士になるとほとんど芽が出ない」と野口先生に言われないうちに、頑張りましょう。

質問 04/04

履修を検討している学生にメッセージ

J.S.ミルの言うように、大学は役に立つことを勉強するところではありません。
専門学校(法、医、など)に行けばすむことです。
皆さんの大枠(深いふところ)をつくるところです。
副専攻の先生方の余裕ある態度を学んで、世界の人々に求められるような人間になってください。